

「林・福連携」飯山で事業化 障害者の手を借り丸太を加工

有志団体 環境省事業に選ばれる

森林の保全や価値向上に取り組み飯山市の有志団体「里山ウェルネス研究会」の事業が、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」達成を目指す環境省の委託事業に県内

性化と障害者雇用の両立を目指すことが評価された。

同研究会の上岡代表らが10日、県庁に中島恵理副知事を訪ね、事業の概要を説明し、



持参した「ログファイヤー」の仕組みを説明する研究会の役員ら11日、県庁

協力を仰いだ。ログファイヤーは、野外で調理したり暖を取ったりする熱源になるほか、明かりにもなる。災害時の利用も想定できる。事業を本格的に始める時期や雇用数は未定。

環境省の事業はSDGsの考え方に沿い、社会、環境両面の課題を同時解決する民間の取り組みが対象。応募があった全国48事業のうち8事業が選ばれ、県内では同研究会が唯一受託した。事業は2年間で、同省は年間200万円未満の費用を拠出する。

上岡代表はPR面などで県の支援を受けたいなどと依頼。中島副知事は「林・福連携」のモデルをつくってもらい、ノウハウを県も共有したいとした。